

(様式第1号)

研究No.
(記載不要)

16-文-4

平成16年度配分 研究成果の概要

研究名	日中貿易関係に関する研究---中国の対米貿易・対EU貿易との比較				
配分を受けた 特別研究費	文化政策学部長 特別研究費 600 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	国際文化	教授	馬 成三	
共同 研 究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 号 (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名: 日本貿易学会第 45 回全国大会における 報告「日中貿易における相互依存関係の変 化」			発表日 (発表 予定日)	平成 17 年 5 月 27 日
	3 その他 発表の方法: 1. 論文「日中貿易における相互依存関係 の変化」、愛知大学現代中国学会編『中国 21』Vo1. 21 2. 論文「究竟誰更依頼誰」(どちらが相手 により多く依存しているのか)、中国商務省 『国際貿易』2004年8月号			発表日 (発表 予定日)	平成 17 年 3 月 22 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

この四半世紀における日本の貿易を、主要相手国別にみると、最も高い伸び率を示したのは対中貿易にほかならない。これまで米国は日本の輸出と輸入の双方において、最大のシェアを占めていたが、2002年に中国は米国を抜き、日本の最大の供給者となり、2003年には中国は日本の輸出市場としての順位も米国に次ぐ第2位に浮上した。近年日本経済は回復の兆しを見せているが、その背景には対中輸出の拡大があるとみられる。

他方、日本にとって、対中貿易、特に対中輸出を拡大する上で幾つかの課題も抱えている。その一つは、欧米企業が中国市場への攻勢を強めている中、如何にして中国での市場シェアを維持するかの問題である。

中国の輸入に占める日本のシェアは、依然として米国とEUより高い数字を維持しているものの、1980年代半ばのそれと比べて約半分に低下した。中国の輸出に占めるシェアを取ってみると、米国とEUはいずれも日本を上回っている。中国の貿易総額に占めるシェアでも、米国とEUは日本のそれに接近している。これは今後中国市場を巡る日本と欧米の競争に微妙な影響をもたらしかねない。

本研究は、中国の対米貿易と対EU貿易と比較しながら、日中貿易を中心とする日中経済関係の現状と課題を解明することにするものである。

(研究の実施方法等)

文献分析と、中国の有力なシンクタンクや主管官庁へのヒアリング、日中両国の研究者との交流を行ないながら進めてきた。

(得られた成果等)

日本と中国で出版された専門誌(愛知大学現代中国学会の『中国21』と中国商務省国際貿易経済協力研究院編集の『国際貿易』)で論文を発表し、日本貿易学会の全国大会でも報告を行なった。